

岩手県工業技術研究推進会議 生産技術部会議事録	(実施日) 平成16年10月29日(金)
----------------------------	-------------------------

(テーマ名) 工業技術センター発開発技術・製品の市場化支援 (事前評価)
--------------------------------------------

委員	質問・意見	回答
D委員	ユニバーサルデザインの開発で、デザインを製作して利用する企業とセンターとの役割分担は何か？	(特産開発デザイン部長) 製品開発力強化と売り上げ増加の達成のためには、現状のデザイン・技術提供だけでは一押し足りない。その一押しにデザインの要素の必要なものも多い。売り上げを達成するまでに手伝える部分を体系化するのが事業主旨である。恒常的な製品営業部の役割ではなく、事例についての市場化手法を実証したい。
	やはり、研究開発がセンターの役割だと考える。研究開発から販売までとなると、製造だけ地元企業に下請けに出すように受け取れるがどうなのか？	(所長) 岩手県の企業レベルを見ると、企業努力で解決できる会社ばかりではない。和音や南部鉄器も営業力が弱いので、売れるところまでは支援する。この考えの良否は意見の分かれるところであるかもしれない。
C委員	これからマーケティングをやるという話だが、例えば琴の年間需要がどれだけあり、その内の何%をとろうとしているのか。それを実現するための武器・差別化要因は何か？	和音については競合商品がないのが強みである。似たものはあるが弾きづらく調弦も困難。和音はそれが容易にでき、教材屋でもマージンの問題はあるが、扱いたいとの回答がある。また、学校の指導要領の変更で、音楽の授業が和楽器を使うのでその辺りにアピールできると思っている。
E委員	各市場を見るとユニバーサルデザインの商品がかなり出回っているように感じる。その中で、今回の開発商品の他のデザインとのバッティングや岩手の特徴付けを今後どのように考えているか？	伝統的工芸品の分野にユニバーサルデザインを盛り込んでいる事例があまりないので、そこが一つの大きな特徴である。また、岩手のユニバーサルデザインというブランドイメージを作り、トータルな販売戦略を強化していきたい。
H委員	買替需要の喚起とは、琴からの買替か、和音から和音への買替か？	和音から和音への買替である。現在2種類あるが、漆塗した製品を現在試作しており、上位機種を作ることで買替の喚起ができると考える。
	漆で検討しているのか？	漆で検討している。
D委員	所長の話は民間的で御上の考えから脱皮してきている点は分かる。ただ過保護になるのを危惧しているので、企業として頑張る分野と支援する分野をわきまえて対応して欲しい。	(所長) おっしゃるとおり、それを心してやりたいと思う。
A委員	販売を考えると計画の早い段階でマーケティングをする必要がある。デザインだけでなく他の部門にも共通することだが、こういう内容に取り組むのは良いことだと思う。	(所長) 出口を担う産業振興センターとも連携し、県の総合力に対応する必要があると考えている。今回の推進会議から産業振興センターの平澤部長さんにも全ての部会に出席いただいている。